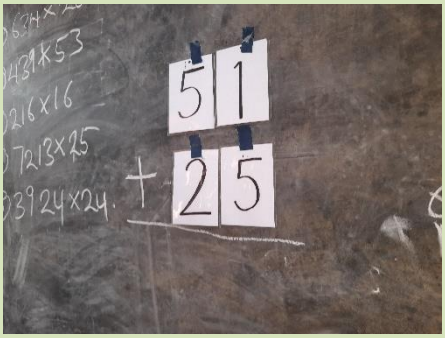
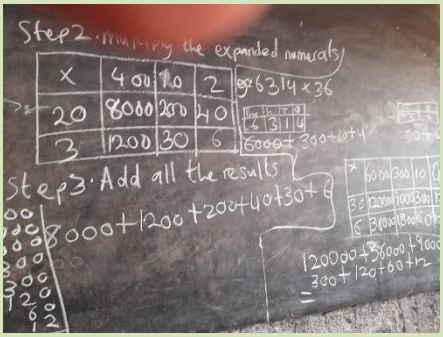
ガーナでそろばんプロジェクト 112 号（2024 年 1 月 31 日）

★★　ほらっ、わかると楽しいでしょ。うれしいでしょ。★★

二学期が一月の第二週から始まりました。そしてここ最近ハマターンが強くなってきました。ハマターンは正式にはハルマッタンと呼ばれクリスマスの時期から二月頃にかけて砂塵がサハラ砂漠からアフリカ西海岸へと吹く貿易風です。北アメリカ大陸まで砂塵は届くそうです。そんなハマターンの時期、乾燥し太陽の光は砂塵により遮られるもの、気温はアクラよりも若干涼しいアフィフェでも常に三十二、三度あります。授業をしていると額に汗がじんわり出てきます。今学期（四月第二週まで予定）五年生六年生でそろばんの授業を集中して実施することにしました。数カードの授業は誰もが楽しめるものでありますが、どうしてもそろばんの授業が付け焼刃き的なものになっていました。それを改善するには今学期の授業はより多くそろばんの授業を取り入れるしかないという考えに至りました。この一月五年生は四コマ取り入れることが出来、六年生は二コマ取り入れることが出来ました。五年生で三回目の授業の日、私が行くまでの間に算数が行なわれていたようで黒板には日本の算数カリュキュラムでは決して習わないであろうとても難しいかけ算の応用が書いてありました。かけ算なので必然的にたし算もすることとなり、繰り上がりが求められます。果たして何人が理解出来て言えるのだろうか。おそらく理解できている子どもはいないかと思います。それでもガーナの教育カリュキュラムだから先生は黒板に書き、子どもは理解できないまま必死でノートに写すのです。そろばんならこの“理解できないまま”を解決できると私の授業に対する意気込みも強くなります。しかしながら、これまでも幾度となくぶつかる子どもの学びに対する温度差、教師用のそろばんを持ち前に立つ私の指導を真剣に聞いている子どももいれば、目が合うと机に顔を伏せる子どもがいて、後者には“子どもの学びの時間を奪ってはならない”と言う想いがあるけれど、感情的になり葛藤しながらも“教室から出ていけ”と言ってしまうのです。しかし、教室から出したとは言え授業の様子を見ていて欲しい、置いてけぼりにはしたくない想いで、教室内が見渡せる場所に立たせるもの座って土いじりを始めるので更にヒートし“立ってろって言ったよね？なんで座るの？”となってしまうのです。理解できないから、理解できるようになりたいと思わないのか？けれどもそうした子どもであっても置いてけぼりにはしたくないのです。感情的にヒートした授業ほど疲れるものは無く、授業が終わり休み時間に入った時に彼女たち3人には“一生懸命覚えなさい。そろばんは賢くなるのだから”と伝えましたそして四回目の授業に照れながらも率先して手を挙げてそろばんに四桁の数字を置きました。六年生の過齢児と思われる男子は身体の小さな同級生と一緒にそろばんの珠を数えるのにニコニコとを出して参加していました。

※写真三回目の授業より　報告 TOSHIKO





子どもの学びのサポートに心より感謝いたします。

協賛　トモエそろばん様